

自分の表したいことを追求し、

つくりだす喜びを味わう図画工作科の学習

## I 図画工作科研究の方向性

### 1 主題設定の理由

図画工作科では、造形的な見方・考え方を働かせながら主体的に活動に取り組むことで「生活や社会の中の形や色などと豊かに関わる資質・能力」を育むことを目指しています。これらの資質・能力を高めるには、表現と鑑賞の活動を相互に関連させ、互いを補うことが大切とされています。造形に関わる多様な経験をすることにより、感性が育まれ、様々な場面で形や色などと関わりながら楽しく豊かな生活を創造しようとするにつながります。

これまでの研究では、造形的な視点を児童にもたせるための試しの活動の工夫や、活動の中での「見ること」を重視し、鑑賞したことを表現に生かすための工夫をしてきました。その成果として、児童は題材における造形的な視点に気付くことができるようになりました。

本校の児童は、「図画工作科の学習を楽しい。」と感じている割合が98%と多く、学習に意欲的に取り組んでいると言えます。一方で、「表現活動を行う上で困るのはどんなときか。」という質問に対して、「何をしようか決められないとき」「途中まで作ったが自分の思った通りにできないとき」という回答が多く見られ、「発想や構想」と「技能」の面でつまずきを感じていることが分かりました。

全体研究主題では、「探究する子供を育てる教育活動の創造」をテーマとしています。図画工作科では、自分の思いや考えを大切に、表したり鑑賞したりすることが大切です。「発想や構想」「技能」「鑑賞」のそれぞれの能力を相互に関連させ、つくりかえながら自分の思いを表すことで、自分にとっての意味や価値を見いだす姿を図画工作における探究する姿と押さえました。

以上のことから、研究主題を「自分の表したいことを追求し、つくりだす喜びを味わう図画工作科の学習」と設定しました。鑑賞や表現において、一度の表現で安易に完結させるのではなく、必要に応じて更新させていくことが「つくりだす喜び」につながると考えます。自分が見たことや他者等との関わり、学びの過程を行きつ戻りつする中で、自分にとっての意味や価値を追求し、つくりだす喜びを感じられる学習を目指しました。

### 2 目指す児童の姿とその具体

よりよいものを追い求め、自分にとっての意味や価値をつくりだす児童

「よりよいものを追い求め」とは、題材の始めに考えた発想や構想を基につくるだけでなく、つくったり見たりする中で、自分の表したいことや表し方を変化させたり新しくしたりしていくことです。形や色などから新たなことを思い付いて試す、他者との交流を通して思ったことを基に表現を工夫する、イメージに近付けるために表現方法を工夫する姿を目指しました。

「自分にとっての意味や価値をつくりだす」とは、児童が心の中に像をつくりだしたり、全体的な感じ、情景や姿を思い浮かべたりしながら、自分の感覚を通して捉えた形や色などを基に自分のイメージをもち、他者との協働を通して多様性に気付き、自分と対象や事象との関わりを深めることです。

## II 研究内容の具体

### 1 自分の表したいことを追求するための学習過程の充実

鑑賞で、材料や作品、自分のつくりつつあるもの、出来事、身近な美術作品などを、形や色などの視点で捉え表現に生かすという活動を繰り返すことが、自分の見方や感じ方を広げることにつながります。表現の中で行う鑑賞の場面でも、独立して設定した鑑賞の場面でも、自分自身の感覚や行為を通して形や色を捉え、感じたり考えたりすることで、生きて働く知識として蓄えられていきます。こうした鑑賞の充実によって、知識を1つの題材の中だけではなく、別の題材や生活の中にも生かし、自分の表したいことを追求することにつながると考えました。

#### ○表現と鑑賞を相互に行う学習過程

#### ○「鑑賞学習追求レベル表」を活用した授業の設計

児童の実態に応じた「鑑賞学習追求レベル表」を使い、授業で扱う作品の追求レベルを設定しました。児童が追求レベル3に到達することを目標として学習過程を設定することで、発問や問い掛け、活動の内容を明確にすることができます。

《オーギュスト・ロダン「カテドラル」鑑賞学習追求レベル表》						
		追求レベル4	追求レベル3	追求レベル2	追求レベル1	
		★★★★	★★★	★★	★	
(C) 造形要素と その効果	(O)-1 形、色	各レベルの基準(すべての題材に共通)	作品の中の形や色に込められた意味や特徴をとらえて、批評している。	作品の中の形や色に込められた意味や特徴について説明している。	作品の中の形や色の特徴を指摘している。	作品の中の形や色に関心をもっている。
		各レベルの基準(本題材のもの)	手のつなぎ方、大きさの違い、色などに込められた意味や特徴をとらえて、批評している。	手のつなぎ方、大きさの違い、表面の感じなどの形に込められた意味や特徴について自分なりに考えて説明している。	手のつなぎ方、大きさの違いや表面の感じなどの形の特徴に触れている。	手のつなぎ方、大きさの違いなどに関心に向けている。

※新関伸也・松岡宏明「鑑賞学習ルーブリック」を参考に作成

### 2 知識の習得と活用を促す指導の工夫

図画工作科における知識とは、自らの感覚や行為を通して形や色などを理解することで、知識を蓄積し、生かすことで、自分の表したいことを追求できると考えました。形や色などを基にイメージをつくり出していく活動は、生活の中で繰り返し行われています。今まで漠然としていたイメージについて感じたり、考えたり、言葉にしたりすることで、自分なりの形や色の概念となり、自分の思いを表現するために使うことができるようになると考えました。また、「鑑賞学習追求レベル表」で設定した追求レベルを上げることが自分なりの見方・考え方を深めていくことにつながります。そのための指導の工夫について考えました。

#### ○追求レベルを上げる問い掛け

レベル1から2：特徴などに気付かせたり、自分なりの想像をさせたりする問い掛け  
レベル2から3：レベル2で気付いた特徴などの根拠を基に考えさせる問い掛け

#### ○形や色などに着目させる交流場面

#### ○形や色などの造形的な視点に注目させる参考作品の提示

#### ○知識と発想・構想をつなげる声掛け

### 3 つくりだす喜びにつなげる評価と振り返り

児童が自らの表現で気に入っているところを「マイストーリー」として記録に残しました。マイストーリーに残す過程で自分の表現の変化を知ったり、よいと思ったことを自覚したりすることが、つくりだす喜びの実感につながります。また、教師が児童の学びを捉えることで、児童の対話を促したり、個別の指導に生かしたりして、児童が自らの表現を更に追求できるように考えると考えました。

マイストーリーの記録(児童)	タブレットを使い、写真や動画などを活用して自分の作りつつある表現や作品、自分の考えの変化などを記録する。 また、「見どころ」「お気に入り」などの視点で自分の作品や考えについて記述したことの中から、造形的な視点に触れているものをフィードバックし、児童が知識を得たことを実感させる。このような活動を続けることで、児童の無自覚な学びを自覚的にさせていく。
鑑賞学習追求レベル表を活用した授業改善(教師)	児童の実態を踏まえ、どのような観点をどのくらいのレベルで設定して授業を行い、どのように見取り、評価していくべきかについて検討する材料として用いる。

#### <3年次研究の重点>

- ・自分の表したいことを追求するための学習過程の充実
- ・知識の習得と活用を促す指導の工夫

### Ⅲ 研究実践

## 4年生実践 『ポーズのひみつ』

実践のテーマ：他者との対話を通して、身近な美術作品の造形的なよさや面白さを追求する鑑賞の学習

### 1 研究授業のねらい

本題材は、彫刻作品のポーズを真似しながら鑑賞することで、表情や足の開き方、指先の力の入り方、場所など、細部まで捉え、体の感覚を働かせながら、その人物の心情や置かれている状況を想像し、話し合うことで彫刻作品のよさや面白さを味わうことをねらいとしました。

そこで、本題材では、旭川市にある彫刻作品のポーズをまねしながら鑑賞することで、身近な作品の特徴や意味について考えました。自分たちがつくった作品ではなく、身近な美術作品を鑑賞するのは本題材が初めてです。この時期の児童は、生活の範囲の広がりや発達に応じて鑑賞の対象が広がり、対象や事象と自分の印象とを分けて捉えるようになります。自分が感じたことや思ったことを、作品の色や形を根拠にして対話をする中で、児童の気付きや感じ方が広がっていきます。対話を軸とした授業づくりをすることで、自分の見方・考え方を広げたり、新たな発想・構想、技能の手掛かりを得たりできるようにしました。

### 2 題材の指導計画（2時間扱い）


段階	時間	学習内容・学習活動	つくりだす喜びを味わう児童の姿	評価規準・評価方法
学 ぶ め あ て を も つ	①	◇題材の見通しをもつ ○作品との出会い 「オーギュスト＝ロダン『カテドラル』」 ・それぞれが感じた第一印象を交流する。 ――― 手のポーズを再現しよう。 ○グループ鑑賞 ・ポーズを再現し、注目箇所を記録する。 ○考えをまとめる ・再現して分かったことをマイストーリーに記録する。 ○全体交流 ○次時の見通しをもつ	・作品を見たり、体の感覚を働かせたりしながら形を捉え、作品の意味を自ら作り出していく姿	知 ◎ 観察 対話 マイス トリー 態 ◎ 観察 対話 マイス トリー
		○…題材の評価規準に照らして、適宜、児童の学習状況を把握し指導に生かす。 ◎…題材の評価規準に照らして、全員の学習状況を記録に残す。		
確 かな な 追 求 解 決	②	◇体の感覚を働かせた鑑賞 ○前時の想起 ○本時の課題の確認 ――― 彫刻作品を再現したら何が分かるかな。 ○個人鑑賞 ○グループ鑑賞 ・第一印象を交流する。 ・彫刻の写真を使い、ポーズを再現する。 ・再現するときのポイントを記録する。 ○考えをまとめる ・再現して分かったことをまとめる。 ○全体交流・振り返り ・活動を通して、分かったことを出し合う。 ・まとめをする。 ――― 形には、見えないことを想像させたり表したりする力がある。	・作品を見たり、体の感覚を働かせたりしながら形を捉え、作品の意味を自ら作り出していく姿	知 ◎ 観察 対話 マイス トリー 態 ◎ 観察 対話 マイス トリー

### 3 本時の学習

#### (1) 本時の目標

人物の彫刻作品をみんなで見て、まねたり話し合ったりし、形の特徴や込められた意味について考えている。

#### (2) 本時の展開（2時間扱いの2時間目）

学習内容と主な学習活動	研究との関わり・留意点
<p>◇体の感覚を働かせた鑑賞</p> <p>1 前時までの想起（3分）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>手を再現して分かったことを確認する。</li> </ul> <p>2 本時の課題の確認（2分）</p> <p>――彫刻作品を再現したら何が分かるかな。――</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>何が分かりそうか、予想させる。</li> </ul> <p>3 個人鑑賞（3分）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>前時に決めた彫刻作品について、第一印象を確認する。</li> <li>マイノートに第一印象を記録する。「怖い感じがする」「のんびりしている人」など、感じたことを自由に記述する。</li> </ul> <p>4 グループ鑑賞（22分）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>第一印象を交流する。</li> <li>いろいろな角度からの彫刻の写真を使い、ポーズを再現する。</li> <li>再現するとき気を付けたことを適宜プリントに記録する。</li> <li>鑑賞が深まらないときは、感じたことを「なぜそう思うのか」と形を根拠にして、より詳しく見る。</li> <li>写真はロイロノートの提出箱に随時入れて、いつでも見合えるようにしておく。</li> </ul> <p>5 考えをまとめる（5分）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>本時の課題の確認で予想したことを振り返る。</li> <li>再現して分かったことを、マイストーリーに記録する。</li> </ul> <p>&lt;マイストーリー例&gt;</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p>形から感じたことを書いている。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p>感じたことを、形を根拠にして説明している。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p><b>再現したらわかったこと</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>このポーズは、猫背で手に力が入っていないので、弱々しい感じがする。</li> <li>表情が怖いと感じたのは、穴が空いていることと、目も口も半開きだからだと思う。</li> </ul>  </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>マイストーリーを提出する。</li> </ul> <p>6 全体交流（10分）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>活動を通して、分かったことを出し合う。</li> <li>まとめをする。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px; text-align: center;"> <p>形には、見えないことを想像させたり表したりする力がある。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>作品の写真は、旭川市彫刻美術館で撮らせていただいたもので、コピーであっても大切に扱うよう指導する。また、著作権の関係から、写真の複製はさせない。</li> </ul> <p>◇知識の習得と活用を促す指導の工夫</p> <p style="text-align: right;"><b>研究視点2</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>追求レベル1から2に上げる問い掛け 「まずはどこでポーズをとるか考えてみよう。椅子の高さはどれくらいがよさそう？」 「大体のポーズができたら、手や足の向きなど細かいところも見ていこう。」 「どんな表情で、どの辺りを見ているのかな。」</li> <li>追求レベル2から3に上げる問い掛け 「色々な角度から写真を見てみよう。」 「見ている先には何があると思う。」 「なぜそのポーズをしているのだろうか。逆にそのポーズをしている人は、どんな気持ちなのだろう。」</li> </ul> <p>※ポーズの再現が遊びで終わってしまわないように、再度作品をじっくり見せて、形に注意を向けさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>鑑賞学習追求レベル表を参考に、追求レベルに応じた机間指導を行う。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p><b>【知識】</b> ポーズなどに注目して身近な美術作品を見るときの感覚や行為を通して、形の感じなどが分かっている。 (観察, 対話, マイストーリー)</p> <p><b>【思考力・判断力・表現力】</b> 形の感じなどを基に、自分のイメージをもちながら、身近な美術作品の造形的なよさや面白さ、表したいこと、いろいろな表し方などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げている。(観察, 対話, マイストーリー)</p> </div> <p>◇つくり出す喜びにつなげる評価と振り返り</p> <p style="text-align: right;"><b>研究視点3</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ロイロノート・スクールを活用してマイストーリーを作成する。</li> <li>第一印象を書く。</li> <li>再現した写真を撮る。</li> <li>再現して分かったことを記録する。</li> </ul>

#### ◇授業の見所・本時で願っている児童の姿

自分の表したいことを思い付き、材料に関わったり、友人の行為や表現を見たりすることを通して、表し方を工夫し、つくり、つくりかえ、つくっていく姿。

## 4 授業の実際

### 自分の表したいことを追求するための学習過程の充実

4年生の立体の題材の見方・考え方を基に、「鑑賞学習追求レベル表」を作成しました。児童が学習の中で形や色に対してどのような見方・考え方をするのかを予想し、追求レベル3を授業で目指す姿として設定しました。児童の反応をより具体的に想定することで、授業中の発問や問い掛け、活動を明確にすることができました。

1時間目にはオーギュスト・ロダン「カテドラル」のポーズを再現することで、形に着目し、自分の感じた印象の根拠を探したり、詳しく見ることで新たな気付きを見付けたりしました。ある児童は、ポーズをまねることで作品の手が2つとも右手であることに気付き、更に詳しく見ることで大きさや形の違いから手の人物が男女であると考え、包み込むような指の形から優しいと感じました。

2時間目は、旭川市の彫刻美術館にある作品をいろいろな方向から撮影した写真を用いて、ポーズを再現しながら鑑賞をしました。児童は、複数の作品から気に入った作品を選んでグループで鑑賞をしました。ポーズを再現するためには、表情、体のバランスなどをよく見る必要があります。児童は鑑賞と表現を何度も繰り返すことで、対象への考えを深めました。



【鑑賞と表現を繰り返す児童の姿】

《旭川美術館の彫刻作品 鑑賞学習追求レベル表》						
		追求レベル4 ★★★★	追求レベル3 ★★★	追求レベル2 ★★	追求レベル1 ★	
(C) 造形要素 とその効果	(C)-1 形、色	各レベルの基準（すべての題材に共通）	作品の中の形や色に込められた意味や特徴をとらえて、批評している。	作品の中の形や色に込められた意味や特徴について説明している。	作品の中の形や色の特徴を指摘している。	作品の中の形や色に関心をもっている。
		各レベルの基準（本題材のもの）	ポーズや表情などの形に気付き、それらから感じることや、表したいことを表す効果などについて、根拠を挙げて批評している。	ポーズや表情などの形に気付き、それらから感じることや、表したいことを表す効果などについて説明している。	ポーズや表情などの形に気付き、その特徴について触れている。	ポーズや表情などの形に関心を向けている。
レベルとの対応		・他者の見方・感じ方に対する自分なりの意見（共通点や相違点など）を、根拠を挙げながら具体的に述べることでレベル4につなげる。	・作品のモチーフとなっている人物の立場や気持ちについて、ポーズや表情などの形や色の特徴を基に自分なりの根拠をもって考え・説明する。 <u>彫刻作品を再現しよう</u> 反応例：床に耳を当てるポーズだから、足音が聞こえてきたよ、この人は音を聞いているのではないかな。 <u>こだわりポイントを書こう</u> 反応例：肘が真っすぐだと、緊張した感じになってしまうので、曲げ方ここにこだわりました。	・作品の細部をじっくりと見たり、真似したりすることでポーズや表情などの特徴に気付く。 <u>彫刻作品を再現しよう</u> 反応例：目はもっと遠くを見ているような感じがな。 耳を床に当てているんだな。	・作品に対して思いのままに印象をもったり、形の特徴を発見したりすることに重点を置き、学習者の興味関心を広げる。 <u>作品の第一印象を書こう</u> 反応例：体が浮いていて変な感じ。びっくりしている顔。転んだのかもしれない。	

### 知識の習得と活用を促す指導の工夫

「鑑賞学習追求レベル表」で整理した見方・考え方を追求するために、問い掛けを工夫しました。児童の反応を具体的に予想することで、問い掛けの言葉を整理することができました。

追求レベル2では、形という造形的な視点に気付けるように指導をしました。ポーズをまねるときに手の形や位置はどうなっているか、体の傾きはどうかなど、部分から全体に目を向けさせるように言葉掛けをしました。

追求レベル3では、「なぜそう思うのか」について、形を根拠に考えるように促しました。例えば、山本正道「風



【形を根拠に考える児童の姿】

と少女」について、「母親のように優しい」という印象をもった児童には、人物の表情、全体的な丸いフォルム、握った手の感じなどに注目させ、ポーズをまねることで、自分の感覚を通して形から感じるイメージを深めることにつながりました。

## IV 3年次研究の成果と課題

3年次研究では、「自分の表したいことを追求するための学習過程の充実」「知識の習得と活用を促す指導の工夫」を重点として、研究を進めました。

### 1 研究の成果

- 「鑑賞学習追求レベル表」を用いて、教材研究を行うことで、作品のもつ形や色などの造形的な視点を確認することができました。また、それらに児童がどのように気付くかという児童の反応を予想し、気付くためにはどのような手立てを講じる必要があるのかを整理して考えることができました。
- 鑑賞とポーズをまねる表現を繰り返すことで児童同士の対話が活発になり、互いの意見を取り入れながら新しい考えをつくりだすなど、対話を軸として学びが広がりました。
- 形や色に着目して鑑賞を行うことで、漠然とした印象だったのが自分なりの根拠をもって考えることができるようになり、知識の習得につながりました。

### 2 今後の課題

- 獲得した知識を自分の表現に取り入れることに課題が残りました。題材を指導する順番を工夫したり、獲得した知識が活用できるような道具や材料、環境を用意したりすることで、児童が自分なりの見方・考え方を鑑賞でも表現でも広げられるようにすることが必要です。
- 「鑑賞学習追求レベル表」は、表現活動をしている中の鑑賞にも生かすことができると考えます。それぞれの学年で大事にする造形的な視点を整理し、いつでも使えるものに整理していくことが必要です。

## V 参考文献

- 小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 図画工作編 文部科学省 日本文教出版  
平成29年7月
- 初等教育資料No. 998  
「特集Ⅱ [図画工作科] 互いのよさや個性などを認め尊重し合うようにする指導」文部科学省  
東洋館出版社 令和元年9月
- 初等教育資料No. 1013  
「特集Ⅱ [図画工作科] 図画工作科における『知識』の習得と活用」文部科学省  
東洋館出版社 令和3年11月
- よくわかる図画工作科なっとく新学習指導要領授業への生かし方  
小林 貴史 開隆堂 平成29年11月
- 小学校図画工作科教育法 山口 喜雄 佐藤 昌彦 奥村 高明 建帛社 平成30年3月
- なるほど！そうか！新学習指導要領 新・図工のABC  
阿部 宏行 日本文教出版 平成30年12月
- 学びとしての図画工作 題材のABC 阿部 宏行 日本文教出版 平成30年12月
- 図工を通して子どもがもっと好きになる 評価のABC  
阿部 宏行 日本文教出版 令和2年7月
- 小学校学習指導要領図画工作科題材&授業プラン 岡田 京子 明治図書 令和2年10月
- ルーブリックで変わる美術鑑賞学習 新関 伸也 松岡 宏明 三元社 令和2年12月